

予算委員会

ふるさと集落元気づくり事業費について

この事業は県の補助事業で、集落的な施設の修繕など、住民が主体的に行う地域の活性化に向けた新たな活動や、個人において地域資源を活用した小さなビジネスを支援することにより、中山間地域の高齢化が進んだ集落の活性化を図ることを目的としています。勝山市も採択された事業には補助をしており、今回の補正予算では、次の3件が計上されました。

- 昔踊りの継承活動（甚五郎会）
（県1/2、市1/6）
- 秋祭りの活性化事業（北西俣区）
（県1/2、市1/6）
- 古民家の修復（小原ECOプロジェクト）
（県2/3、市1/6）

このような国・県より地域への補助金制度については、市民への周知不足、補助制度が活用しきれないのではないかとの指摘がありました。理事者からは、区長会等で周知しており、問い合わせがあれば、丁寧に対応しているとの返答がありました。

社会保障・税番号（マイナンバー）制度の導入について

現在、年金・医療・介護などの社会保障制度は、制度ごとに違った番号が個人に付けられています。このことが、各種手続きを複雑にしている一因にもなっています。

平成28年1月から利用開始予定の「マイナンバー制度」は、国が国民一人ひとりに付番、管理する12ケタの個人番号をもとに、行政機関など複数の機関間において、それぞれ管理している同一人の情報を紐付けて相互に活用する仕組みです。このことにより、複数機関が管理する同一人の情報を一括して確認でき、窓口における事務処理の迅速化、提出書類の簡素化など市民の利便性の向上が期待されます。

今回の補正予算では、「マイナンバー制度」導入のためのシステム改修費として合計3,037万4千円が計上されました。

委員会では、本来は国がシステム費用を全額みるべきところを、勝山市が1/3負担となっているのもあり、財源負担の在り方や、保育料、がん検診などは対象にするのは問題などの意見がありました。また利便性がある反面、プライバシー保護の問題や情報漏えいによる犯罪などについても指摘がありました。

総務文教厚生委員会

■今定例会の審議結果

今定例会では勝山市税外収入金徴収条例の一部改正など議案7件と陳情1件について担当課より詳細な説明と意見を求め慎重に審査しました。

審査の結果、議案7件は可決、並びに承認とし、「日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求め意見書」提出に関する陳情については「趣旨採択」としました。

福井県立クレール射撃場の整備について

委員会では、鉛問題で平成14年度から休止状態になっているクレール射撃場再開のため、福井県が平成26年度から2年間かけ、鉛による環境汚染の再発防止のための工事を実施するとの説明がありました。このクレール射撃場は平成30年の福井国体ではクレール射撃競技の会場として使用されることになっています。

委員からは鉛汚染対策、鉛散弾の回収、国体開催後の管理運営について意見が出されました。

勝山城博物館・勝山市連携共催展（案）について

市制施行60周年を迎えて勝山市の歴史を振り返る「幕末・維新かつやまの人づくりー教育と産業の歩みー」

が、8月30日から12月7日までの100日間、勝山城博物館の4階の展示室を会場に、勝山城博物館・勝山市の連携共催として開催される説明がありました。料金は、特別料金として、大人700円、小中高生260円ですが、市民の皆様には、さらに安い料金設定を考えているとのことです。

委員からは展示内容、関連イベント、費用、料金等について意見が出され、理事者からは市内小学校の児童にも見ていただくため、料金設定については、再度検討すると回答がありました。

重要文化財 旧木下家住宅保存活用計画（案）の概要について

旧木下家住宅は昭和50年に勝山市の指定有形文化財になり、その後、昭和62年3月には福井県の指定有形文化財、平成22年6月には国の重要文化財となつて現在に至っています。

27年度から4年間で文化財保護のための保存修理工事と耐震工事が行われることになりました。総事業費は3億6,800万円ですが、国と県の補助を活用することにより、勝山市の負担は1/3（一般財源3,000万円、起債9,200万円）となります。

委員からは、管理運営方法、工事請負業者等について意見が出されました。